北海道

音更町立 共栄中学校
2年B組19番
佐々木 翠花

北海道について

北海道の総人口は令和4年の時点で約515万人であり、そのうち約195万人が札幌市に在住している。
また、北海道の面積は、約83,450km²で、九州(約36,780km²)の約2倍、日本全土(約378000km²)の5分の1ほどと広大である。

←北海道と九州の面積を比べた図

北海道は、47都道府県の中で最も北に位置しており、気候帯は冷帯(亜寒帯)となっているため、年間の寒暖差が激しい。また、年間の平均気温が低く、冬は氷点下になるため、降雪や積雪量が多い。

14総合振興局・振興局

- 宗谷総合振興局
- 上川総合振興局
- 留萌振興局
- 釧路総合振興局
- オホーツク総合振興局
- 十勝総合振興局
- 根室振興局
- 空知総合振興局
- 後志総合振興局
- 胆振総合振興局
- 石狩振興局
- 日高振興局
- 渡島総合振興局
- 檜山振興局

北海道の産業

広大な土地を生かし、畑作や稲作、酪農などの様々な農業を行い、全国の食料自給率が約38%なのに対し、216%の食料自給率を誇っている北海道。そんな北海道の産業とはどのようなものなのか気になり、調べてみることにした。

広大な面積や豊かな自然環境を生かし、自然に働きかけ、作物を作ったり、採取する産業である、第一次産業を主体として産業を行っている北海道。代表的なものとして、十勝地方で畑作、石狩・上川地方で稲作、道東地方で酪農業、函館や根室、釧路、オホーツク沿岸などで漁業が盛んに行われている。

農業生産額の構成(2018)

また、新鮮な生産物を加工できることを活かした食品加工業などの、工業も行われており、特に釧路、室蘭、苫小牧の3都市は、北海道の三大工業都市と呼ばれており、代表的な工業地域となっている。観光業も盛んで、様々な人気観光地がある。

北海道の農業

北海道は、寒冷で積雪期間が長く、厳しい自然条件下にある。そのため、小麦やじゃがいも、大豆や甜菜など、涼しい気候に適した作物が作られている。また、ビニールハウスで作物を栽培したりもされる。栄養分の枯渇を防ぐために、様々な農作物を1年ごとに植え変える輪作が行われている。

さっぽろ雪まつり

毎年2月上旬頃に、北海道札幌市中央区内の大通公園をはじめとする複数の会場で開催され、2023年の来場者数が約175万人、最も多い時(2019年)の来場者数が約273万7千人と、多くの人が訪れる、道内でも大規模なイベントの一つで、世界三大雪まつりの一つであるとされている。札幌市や札幌観光協会、札幌市教育委員会、札幌商工会議所が主催していて、雪で作られた像の展示が中心となっている。また、雪像(氷像)の制作は、陸上自衛隊、札幌市職員、市民ボランティア、市民グループ、民間団体、国際雪像コンクールに参加する外国人グループなどが行う。

国際的希少種の生息地 知床半島

平成17年7月17日に世界自然遺産に登録された知床は、北海道東北端にある知床半島の一部及びその沖合3キロメートルの海域であり、斜里町と羅臼町にまたがっている。知床半島は、オホーツク海からの流氷によって運ばれた植物プランクトンが、海、川、森の生態系を支える食物連鎖の起点となり、海と陸の生態系が関わり合う、特殊な生態系が見られる。また、知床には、シマフクロウや、高山植物であるシレトコスミレなど、絶滅危惧種などの、世界的にも希少な生物が生息している。知床半島は、オホーツク海に突き出していることから、海洋の影響を強く受け、道東の中でも積雪量の多い地域となっている。また、羅臼岳や三ツ峰、サルシイ岳やオッカバケ岳など、様々な山から成る知床連山は、知床半島の東西の気温や降水量に大きな影響を及ぼしている。知床連山の東に位置する羅臼側は、夏は雨が多く、低温になっている。また、冬は降雪が比較的多く、気温も比較的高くなる。一方、西に位置する斜里側は、夏は降水量が少なく、高温地域になっている。また、冬は気温が低くなっている。

流氷

流氷とは、海に浮かんで漂流している氷のことで、日本では、北海道のオホーツク海沿岸でしか見ることができない。その中でも知床、網走、紋別の3地域は流氷の名所として知られていて、砕氷船や流氷展望台などでも楽しむことができる。また、流氷は1月から3月頃までの間に現れ、4月になると、北海道から溶けて無くなってしまう。また、よく似た物でジュエリーアイスという、宝石のような氷が北海道豊頃町にある大津海岸で見ることができるが、白っぽい色をした流氷とは違い、川の水でできているため透明度が高い。また、1月から2月頃まで見ることができる。